

「街を4分割して持ち帰る(5)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

4分割して「再開発された街」は、一人ひとり個性豊かで、同じものは一つもない。104人分の104の街ができあがり、それぞれ持ち帰れるようになった。



この作品は、もともと「島」だった。青いスズランテープで海を作り、それに街全体が囲まれていたわけだ。それを4分割したので、一部が陸、一部が海の面白い街ができた。この女児は、そこに手作りの「グリーンビル」という建物を海中に建てた。陸地には「山」もあって、なかなかの出来栄えに満足したようだった。



すでに持ち帰れるようになった個々の街だが、どうも名残惜しいようで、友達の家とくっつけて遊ぶ姿も見られた。実は家に持ち帰ったあと、建物の中に豆電球を設置して、光らせるという活動が待っている。こうして互いの作品を見ながら、「どこに豆電球をつけようかな」と相談しているのだ。



個々のボードの裏側には、ゴム磁石が接着してあって、ホワイトボードや黒板に付けることができる。家のスチール製品や冷蔵庫にも付くだろう。こうして縦にして保管できるのが面白いところだ。



小石川のスギ薬局で買ってきた手提げ袋は、この街のボードを持ち帰るのにちょうど良い大きさだった。帰りの会まで、教室後方の床に置くことにした。



ボードは非常に軽いので、子どもでも楽々と持ち帰れる。この日、全員が「街」を持ち帰ることができた。